

認定NPO法人おんがくの共同作業部 ONBA NPO 音場ニュース

歌いたい人・聴きたい人のための会報 第140号 2020/5/28 発行

みつつの願い

- 1) 声楽・合唱作品の演奏に多くの方々に参加していただくこと。
- 2) 私たちの演奏を多くの方々に聴いていただくこと。
- 3) 聴いていただいた方々に、その作品の感動を伝えられる演奏をすること。

おんがくの共同作業場の
東日本大震災
音楽復興支援基金
2020.5.20 現在
現在の残金 834,327 円

Since 2011.3.11

2011 年からの出金 9,384,472 円

☆熊本地震復興支援の寄付は含まれていません。

※音楽復興支援のための募金は
ゆうちょ銀行寄附専用口座
00170-0-358797

合唱練習再開にあたって1

合唱団では今回の新型コロナウイルス感染予防として、3月30日以降合唱練習を休止しています。緊急事態期間の延長が決まった段階でアンケートを行ったところ9割を超える方からアンケートの返信を頂きました。早く練習が再開して歌いたい希望がある一方、いつになったら安全に歌えるのかという切実な声が聞かれました。陽性の発症率は20%弱とはいえ、国によっては死亡率も高く、合唱を再開するのは難しいのが現状です。PCR検査等感染者を隔離できないことからくる不安感は拭いきれず、三密が前提の音楽界全体の展望も見えない状態です。

しかし、再開に向けての準備だけは進めていきたいと思っています。練習会場の大きさによって人数制限を設け衛生管理を徹底して行うことは当然ですが、参加者一人ひとりが十分に注意をし、自らが感染しない！感染させない！ことを徹底した練習参加をする以外にこの困難を乗り切る方法はありません。その上で、具体的提案をしながら進んでいきたいと思っています。私の予想ではコンサートの再開は9月になるのではないかと思います。6、7、8月はその準備期間 ということになるでしょう。練習会場、またコンサート時におけるステージ・フォーメーション、客席のあり方等これまでと非常に異なる状態での再出発になると考えています。(郡司 博) ～以下に合唱団員アンケートの集計結果、寄せられたご意見を紹介いたします。～

●今後の練習に参加するかどうか (回答:275 名)

	参加	未定	不参加
ブラームス『ドイツレクイエム』	135	3	8
マーラー『交響曲 3 番』	49	2	4
ベートーヴェン『ハ長調ミサ』	70	5	8
バッハ『ロ短調ミサ』	159	4	16
ダン・フォレスト『Jubilate Deo』	14	3	5
日歌	33	2	5

●今後演奏したい曲

- 1位 バッハ「マタイ受難曲」
- 2位 モーツァルト「レクイエム」
- 3位 バッハ「ヨハネ受難曲」
- 4位 バッハ「クリスマスオラトリオ」
- 5位 ベートーヴェン「荘厳ミサ」／フォーレ「レクイエム」
メンデルスゾーン「エリアス」／ヘンデル「メサイア」
- 9位 ベートーヴェン「第9」／ブリテン「戦争レクイエム」
ハイドン「天地創造」／ドヴォルザーク「スターバト・マーテル」
- 13位 マーラー「復活」

●不参加の方の主な理由

- ・自分に持病があるのでリスクは避けたい
- ・長距離の交通機関での感染が心配
- ・高齢のご家族と同居
- ・仕事上リスクは避けたい
- ・ワクチンができるまで様子をみたい
- ・練習より本番の日の「密」が怖い

合唱再開のための準備を進めています！



フェイスシールド



ビニールシート



非接触型 額体温計



アルコール除菌



アクリルパーテーション

手作りマスクのプレゼント
ありがとうございました♡
指導者及びスタッフにお
渡ししました。



合唱練習再開にあたって2

合唱団員と指導者の中に感染者がいなければ、いくら練習しても全く構わないわけですが、東京での感染率は例えば3%くらいという意見があり、それだと200人の合唱団員の中に数人～10人程度の感染者(無症状かもしれない)がいてもおかしくありません。50人でも1～2名の感染者がいる計算になります。そして、音を遮断するための密室状態で全員が大声で発声すると、やはりそれなりの数のウイルスが室内にまき散らされることは間違いありません。正しく発声すれば唾液の飛沫が飛ぶことは少ないということですが、未熟者である私の場合には大声で歌った時に唾が飛んでしまったという場面が過去にありました。エアロゾル感染(簡単に言えば、空気感染と大差ありません)のリスクもそれなりにあるということです。やはり密室での歌唱行動はリスクがあると言わざるを得ないでしょう。

日本における感染者数が顕著に減少し、無症状だけでも抗体を持っている人(すでに感染・発症して回復した人を含む)の人数が顕著に増え、有効なワクチンが開発され、治療薬が誰でも使用できる、という状況にならないと安心して大規模な合唱(練習も本番も)を行うのは難しいと言わざるを得ません。1～3年くらいのうちにはそのような時が来るでしょうが、現状ではまだまだと思われます。

それでも「歌う」という文化を放棄するのは悔しいので、リスクを下げるためにできる基本的対処法を考えると以下のようなことになるでしょうか(理想論を含む)。

- ・最近受けた PCR 検査でウイルスが体内にいないことが確認された人は、多分安心して参加してよい。風邪症状のある人、体調の悪さを感じた人は絶対に練習に参加しない。
- ・遠くから公共交通機関で時間をかけて練習に来ることは避ける。
- ・身近に感染者や濃厚接触者がいる人は練習に参加しない。
- ・参加した人は、会場で非接触型の体温計で必ず熱がないことを確認する。会場に入る時はアルコール等での消毒を実施する。
- ・こまめに換気する(例えば15分おきくらいに＝15分の根拠はありませんが)。換気のための窓等がない練習場はなるべく使用を避ける。例えば新宿文化Cの4階の部屋などは窓があつていいですが、芸劇の地下のリハ室などは問題かも。
- ・音取りなどの段階では、マスクを着用したまま練習する。
- ・練習会場での余計なおしゃべりはしない。ミサ曲を歌う時の気持ちで禁欲的に練習する。
- ・会場内では間隔を(特に縦も)広く保つ必要があるので、参加人数を少なく絞る。

上記のことは我々合唱団員の健康というよりも、指導して下さる先生方の健康を維持するために必要なことと思います。人数を少なくすると逆に練習回数が増えるので、先生方のリスクが高まります。したがって、

- ・音取りなどの基本的な練習は、音取りCD等を利用してなるべく自宅で行い、練習に参加する機会を減らす。
- ・渡部先生のYoutubeを使った練習指導は素晴らしい試みでしたが、練習自体を双方向で行う Zoomのようなシステムが利用できれば、Webによる歌唱指導もある程度できるかもしれません。いろいろ課題はあるようですが、技術は急速に進んでいます。ここで検討することが必要かと。

大きなホールで名曲を精一杯歌って、聴衆と感激を分かち合える日が来ることを心から祈っていますが、そこに早く至るには我々の我慢と努力が必須です。我々が感染クラスターを形成することになっては大変です。(バス:清水 誠)

歌うことで空気が流れる距離は約0.5mという実験結果！

～ミュンヘン防衛大学の報告より抜粋～

歌うことと演奏することは、友人たちの小さなサークルであれ、会堂で教会共同体と共にであれ、祝祭行事あるいは大きなコンサートであれ、いずれも同じく多くの人々に喜びを与えてくれる素晴らしい活動である。

現在は、文化的な興行がいつまたどのような条件の下に再開できるのか、まったく未定の状態である。事実には、歌と吹奏楽器演奏の際に適切な呼吸保護マスクをつけることは不可能だということである。飛沫感染防護は安全距離を保つことで実施せざるを得ない。しかし、歌手や吹奏者が感染している場合にウイルスをその周辺にどの程度広げるのか、また空間における空気の流れがウイルス移動の際にどのような影響を与えるのか、信頼できる情報が提示されていない限り、安全距離の規則も有意義に定めることができない。

<どれくらいの距離で歌うことは危険になるのか？>

ケーラー教授とハイン博士の実験は、空気は歌う際に口のすぐそばだけで動くようになると明確に示している。プロ歌手の場合に、音がどれだけ大きいのか、そしてどの音程で歌われたかによらず、約0.5mの距離でもはや殆ど何の空気の動きも確認できない、ということを示している。歌う際に生成される気流を通じたウイルスの拡散は、この限界を超えては極めて蓋然性が低い。歌う際に、プロによってたいてい用いられている横隔膜呼吸ではなく、むしろ自然な胸式呼吸を使っているアマチュア音楽家も、この約0.5mの範囲を超えはしない。

空気の動きがわずかしき拡散しないことは、ケーラー教授によれば不思議ではない。なぜなら歌う際には、たとえばくしゃみをしたり、咳をしたりする際のように、大きな空気の量が突発的に吐き出されたりはしないからである。むしろ歌手の技術は、できるだけ少ない空気を動かして、それにもかかわらず美しく力強い響きを生み出すことにある。調査は、ほとんど12秒間持続された低い音を歌う際に、およそ0.5リットルの空気が吐き出されたのみである、ということを示している。高い音の場合、同じ量の空気はすでに5秒足らずのうちに動かされたが、しかしながら高音を生み出すために空気がしばしば吸われるので、その結果この場合に飛沫拡散の危険は非常にわずかである。たとえ高い音の場合に息が吐かれたとしても、口の開きは音程が高くなるにつれて傾向として大きくなり、それによって流速は対応して減少するので、流速は比較的に小さくなる。基本的に歌う際の強い空気の動きは、避けるべき望ましくない副次効果とみなすことができる。なぜなら、響きの拡散は気流を必要としないのであるから。気流はただ音を生成させるためにのみ必要である。空気が口の前でほとんど動かないということ信じない人は、燃えているローソクを口の前にかざし、それから歌うか話すかしながら、同時に炎をゆっくり静かに口から離すことをやってみるのが良い。炎の揺らめきが止まり、空気の動きが消え入るばかりにわずかになる距離が突き止められる。↗

<歌う際の防護措置の推奨>

それにもかかわらず、咳をして、衛生エチケット(曲げた肘に咳をして、その際他の人々から顔を背ける)が守られない場合、合唱団では飛沫感染を効果的に防ぐために、少なくとも1.5mの安全距離を保つべきである。単純な咳払いの際に飛沫は1メートルを超えて運ばれ、長く持続する刺激性咳嗽の場合にはそれどころか2メートルを超える可能性がある。このことは研究者たちがすでに別の研究で実証している。

さらに、合唱団が複数列で成り立っている場合は常に、歌い手たちが互い違いに立つことが推奨される。この並び方は教会礼拝参加者の場合も、他者と自分自身を飛沫感染から守るために奨められる。教会によく出席者が集まり、安全距離がもはや保てない場合には、上述の科学者たちの研究によればFFP2/3呼吸保護マスクだけが自分と他者を保護する者として役に立つ。

しかしこれらの調査にしたがえば、[1.5mの安全距離]より遠くに人々を感染させることはほとんど不可能である。歌うことをある合唱団の大部分が感染したことの説明として持ち出す記事に関しては、社会的行動が感染の実際の起源ではないのかと、背景調査をする必要があるだろう。特に人懐っこい人々が他の合唱団員にハグと頬キスで挨拶し、休憩時間に興奮しておしゃべりをして、練習の後さらに気の合う仲間と夕食をしたり、一緒にワインを一杯飲んだりして、それから心を込めた挨拶をして別れたとすると、この社会行動は感染の場合、歌うこと自体よりも危機的であるということをも前提して考えることができる。

また非常に重要なのは、練習場所でのきちんとした正しい換気に配慮することである。換気率をパンデミックの期間には明確に上げ、理想的な空間換気として、空気は下方から床を通して導かれ、面的には天井から吸気されるべきである。側面から空気を排出すると、ウイルスで汚染された空気が感染していない人々に向かって流れることがあり得て、それは厳しい状況の下では比較的大きな距離を超えて感染に至る可能性がある。室内の空気を下方に吸気することは、飛沫がより多く様々な物に沈積する可能性があるため、ウイルス感染の観点で同様に不都合である。色々な物が共同で使われる場合、手指接触感染を引き起こす可能性がある。

考えなければならない点がもう一つある。すなわち、人間の暖かい身体の周囲とその頭上には、皮膚によって温められ、また吐き出された空気は周囲の空気よりも軽いため、通例上昇する対流が形成される。この効果は同様に、室内空気を天井を通して吸気することに有利な論拠となる。また重要なのは部屋の大きさである。部屋[の天井]が十分に高い場合、湿度が高過ぎないならば、飛沫は比較的長く滞留するので、薄められる結果となる。

もし仮に飛沫なしのウイルスが感染力を保ったままであるとしても、感染の危険は、天井の高さが十分である限り、部屋の上層で空気が混ざることによってさらに低減される。[天井が]より低い部屋では、飛沫は薄められる前に再び下方に流れ、もし天井を通して吸気されないならば、場合によっては他の場所で飛沫感染を引き起こす可能性がある。

安全な音楽興行のためにはそこで、距離と立ち位置の規則と並んで、換気と部屋の大きさも重要である。

<バイエルン放送局のニュース～管楽奏者編～>

～ベルリンのシャリテ大学とミュンヘン防衛大学のまとめ～

- ・管弦楽：最低1.5～2m間隔
- ・金管：0.5m、金管楽器をアクリル板などで囲み、金管の水滴を布で吸収
- ・木管：フルート以外1m強、フルートは離すよりも前に空気が出るので、できればフルートの歌口の20センチ前には薄い布を配置する。他の木管楽器も同様に推奨
- ・楽器と歌手：最低1.5m
- ・楽器と指揮者：1.5m間隔、指揮者からの指示が必要なリハーサル時は2m

☆その他ドイツのオーケストラ組合は弦楽器に関して、一人に一つの譜面台を提案しています。

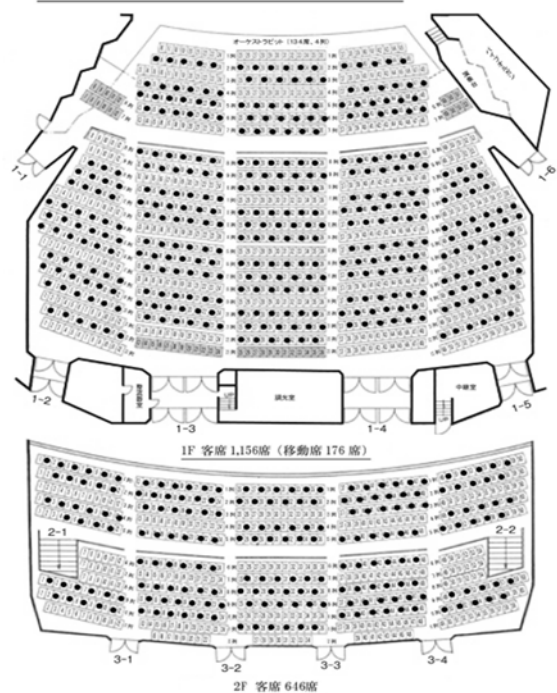
ソーシャルディスタンス時代のコンサートとは 空席を作ることである。

<使用可能な座席数の減少による2つの道の考察>

1. 大ホールを諦め、小規模な作品(小編成のオーケストラもしくは室内楽コンサート)を小ホールで演奏する。
→必然的にベートーヴェン第九、ヴェルディのレクイエム、ヘンデルのメサイアなど50人以上の演奏者、100名を越す歌手、ソリストが必要な曲は演奏できない。
2. チケット代を引き上げ、極限に少ないリハーサルと低賃金。メディア・印刷などの広告料は限りなくゼロへ。
→チケット代の上昇により富裕層、特権階級以外は交響楽やオペラを観ることが出来なくなる。

助成金もなく、チケット代の引き上げも難しい当NPOの場合、仮に満席数が座席数の30%として、これまでのチケット代で演奏会を賄うという考え方自体が成り立たなくなる。個々の意識の変革が必要である。

新宿文化センター大ホール座席表



●590席(満席数の30%)

～参考イメージ図(新宿文化センター大ホール)～

Concert Guide 2020

チケットのお申し込みはお電話、メールで

TEL:042-522-3943 / e-mail:npo@gmaweb.net

※下記は出演者等内容が変更になる場合もございます。

9月13日(日)夜に延期

- 2020.5.9[主] ミューザ川崎シンフォニーホール 14:00
マーラー『交響曲第3番』 【協力】
指揮:井上喜惟 / 主催:マーラー祝祭オーケストラ
独唱:蔵野蘭子 / 合唱:東京オラトリオ研究会
児童合唱:横浜少年少女合唱団、カントルムみたか

12月24日(木)夜・杉並公会堂に延期

- 2020.5.23[主] 東京オペラシティホール 13:30
J.S.バッハ『ロ短調ミサ』 【主催】
指揮:郡司博 / 管弦楽:オラトリオ・シンフォニカ JAPAN
独唱:星川美保子、中島郁子、中嶋英加、藤村松原陸、原田光
合唱:東京オラトリオ研究会、東京ライエンコーア
- 2020.6.16[火] TACHIKAWA STAGE GARDEN
ボン・ベートーヴェン交響楽団 【依頼】
ベール 公演中止
指揮:フョードル・カフケン
- 次の公演については決まり次第お知らせいたします。

<おうちで楽しむ小さな演奏会>の配信

おんがくの共同作業場の会員、及び合唱団員に、いつも一緒に演奏してくださっているオーケストラの方々、演奏家の方々の動画を限定配信しております。
ご希望の方はおんがくの共同作業場までメールにてお申し込みください。(mail:npo@gmaweb.net)

- ★第1弾 → 配信中
萩原顕彰(ホルン) A. グラズノフ: 夢想 Op.24
吉永哲道(ピアノ) 05 ブラームス op.117-1 & 118-2
渡部智也(バス) ダルゴムシスキー
- ★第2弾 → 配信中 中島ゆみ子ファミリー
・サラサーテ作曲: ナバーラ
・ポーリシュカポーレ〜クンパルシータ〜熊蜂
- ★第3弾 → 配信中
早川枝里子(ピアノ) 花は咲く〜糸 / 萩原顕彰(ホルン)
- ★第4弾 → 配信中
オペラ『ストーンマン〜石になった男』(渡部智也他)
- ★第5弾 青山聖樹 & 中山亜津紗
／大井哲也 & 田村由貴絵 他
- ★第6弾 合唱組曲『あらしのよるに』を予定。

他にも指導者による合唱団員に向けた、ストレッチ、発声練習の動画等を発信しています。音場ではこれらのコロナ対策支援に寄付を募っています。

申 込 書

令和 年 月 日

※印はもれなくご記入ください

※お名前

※ご住所 〒

※TEL/Fax

e-mail

下記該当項目に○をつけてください

① 公演チケットの申し込み

公演日 月 日 会場 曲目
希望券種 S・A・B・自由 枚数 金額

※入金方法はチケット送付時にお知らせいたします

② 新規入会をお待ちしています

会員種別 個人 団体 / 正会員 賛助会員
・ゆうちょ銀行振り込みの予定 月 日頃 / 演奏会場や合唱団などでの現金

③ ご寄付、募金

() ペシャワール会へのご寄付
認定NPO法人おんがくの共同作業場へのご寄付 () コロナ対策支援寄付
金額 領収書・要・不要・無記名希望

こども合唱団育成のためのご寄付

金額 領収書・要・不要・無記名希望

音楽復興支援のための募金(ゆうちょ銀行専用口座00170-0-358797)

金額 領収書・要・不要・無記名希望

注) 無記名希望の領収書は確定申告に利用できません。寄附者名簿にも載せません。

認定 NPO 法人

おんがくの共同作業場

〒190-0012

東京都立川市曙町 2-25-1

カクニ第2ビル3F

TEL042-522-3943

FAX042-522-3937

http://www.gmaweb.net/npo/

e-mail: npo@gmaweb.net

会員数: 181 名 2 団体

(2020/3/20 現在)

ゆうちょ銀行口座番号:

00160-5-553981

特定非営利活動法人

「おんがくの共同作業場」

<正会員年会費>

個人 3 万円 団体 20 万円

<賛助会員年会費>

個人 1 万円 団体 10 万円

認定 NPO 法人へのご寄附、募金に、寄附金控除(所得控除)との選択により、税額控除が適用できるように改正されました。

